

横查情報月報



横浜市衛生研究所

平成27年6月号 目次

【トピックス】

劇症型溶血性レンサ球菌感染症のまとめ	1
平成26年度 家庭用品検査結果	3

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告 5月	5
-------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報	9
---------------------	---

劇症型溶血性レンサ球菌感染症のまとめ

(病原体の検査結果について)

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、A群やG群の溶血性を示すレンサ球菌によって引き起こされる感染症です。基礎疾患の有無に関わらず、突然の四肢の疼痛、腫脹、発熱などで発症し、その後急激に軟部組織壊死、急性腎不全、播種性血管内凝固症候群(DIC)、多臓器不全(MOF)を引き起こしショック状態から死亡することも多い感染症です。1999年の調査開始から患者数は増えており、2014年の感染者数はこれまでで最も多く、全国で年間273例となっております。

当所では、感染症法に基づく感染症発生動向調査事業の一環として市内の医療機関から送付された劇症型溶血性レンサ球菌感染症の患者から分離された菌株についてT型別¹⁾、*emm* 遺伝子¹⁾、発赤毒素(*spe*) 遺伝子の検査をおこなっています。さらに菌株を国立感染症研究所に送付し、そこでM型別¹⁾、薬剤感受性試験などをおこなっています。²⁾

今回は2014年1月から12月までの1年間に市内の医療機関から受け入れた菌株についてその検査結果を報告いたします。

市内では、毎年5株程度の菌株が搬入されていましたが、2014年は表に示した13株が搬入され、例年よりかなり多い年でした。その起因菌のほとんどはA群溶血性レンサ球菌でした。そのうち「T1型 M1型 *emm* 1.0」の株が4株分離されましたが、その他は様々な型を示しました。「T1型 M1型 *emm* 1.0」の株は、これまで劇症型溶血性レンサ球菌患者から最も多く分離されている型になります。また、今年にはB群溶血性レンサ球菌による2事例、G群溶血性レンサ球菌による2事例の菌株が搬入されましたが、いずれも血清型や*emm* 型は異なりました。

¹⁾ T型別、M型別とは、A群溶血性レンサ球菌の菌体表層に存在する蛋白の血清型別のことで、疫学調査の手段として広く用いられています。また、M蛋白は抗オプソニン作用を示し、病原因子として知られています。*emm* 遺伝子による型別はそのM蛋白遺伝子で型別する方法です。

²⁾ 衛生微生物技術協議会 第35回研究会(東京) レファレンスセンター等報告

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/allarticles/manual/297-labo-manual/4820-reference-report35.html>

表 2014年分離された劇症型溶血性レンサ球菌感染症由来菌株の検査結果

発症日	年齢	性別	材料	菌名	T型	M型	emm	発赤毒素遺伝子 (spe)
3/10	38	女	血液	A群	1	1	1.0	speA、speB、speF
4/2	78	男	血液	G群 <i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>			stG485.0	
4/12	49	男	血液	A群	1	1	1.0	speA、speB、speF
4/12	85	女	血液	B群 III型				
4/18	86	女	血液	B群 I b型				
7/27	32	男	膿	A群	9	UT	77.0	speB、speC、speF
10/5	67	女	血液	A群	22	UT	88.5	speB、speF
12/2	78	男	血液	A群	UT	UT	48.1	speB、speC、speF
12/5	94	男	血液	G群 <i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>			stG4974.1	
12月上旬	62	女	血液	A群	UT	3	3.95	speA、speB、speF
12/13	39	女	血液	A群	1	1	1.0	speA、speB、speF
12/15	60	女	膿	A群	1	1	1.0	speA、speB、speF
12/26	64	女	膿、 血液、 カテ尿	A群	28	UT	28.0	speB、speC、speF

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

平成26年度 家庭用品検査結果

家庭用品担当では日常の生活用品である下着、靴下、帽子、床敷物、カーテンなどの繊維製品および家庭用の接着剤、塗料、エアゾル製品、洗浄剤などの家庭用化学製品について、「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」に基づき検査を行っています。

平成26年度に規格基準に関する検査で取り扱った検体数は69件、延検査項目数は271件でした。検査の結果、規格基準を超えた検体はありませんでした(表1、表2)。

表1 平成26年度 家庭用品検査検体内訳および検査結果

	検体数	違反検体数	検査項目数	ホルムアルデヒド ^{*1}	ホルムアルデヒド ^{*2}	有機水銀化合物	トリフェニル錫化合物	トリブチル錫化合物	デイルドリン	TDBPP ^{*3}	BDBPP化合物 ^{*4}	DTTB ^{*5}	水酸化ナトリウム・水酸化カリウム	メタノール	テトラクロロエチレン	トリクロロエチレン	容器試験			
																	漏水試験	落下試験	耐酸性・アルカリ性試験	圧縮変形試験
よだれ掛け	13	0	52	13		13	13	13												
下着	10	0	60	10		10	10	10	10				10							
中衣	11	0	33	11					11				11							
外衣	12	0	36	12					12				12							
繊維製品																				
手袋	2	0	12	2		2	2	2	2				2							
くつ下	4	0	24	3	1	4	4	4	4				4							
帽子	1	0	3	1					1				1							
寝衣	1	0	5	1					1	1	1	1	1							
寝具	1	0	5	1					1	1	1	1	1							
衛生パンツ	1	0	3			1	1	1												
カーテン	1	0	2							1	1									
家庭用化学製品																				
かつら等接着剤	4	0	4		4															
家庭用ワックス	1	0	3			1	1	1												
家庭用エアゾル製品	5	0	15											5	5	5				
家庭用洗浄剤	2	0	14										2	2	2	2	2	2	2	2
合計	69	0	271	54	5	31	31	31	42	3	3	42	2	5	7	7	2	2	2	2

*1 乳幼児(生後24か月以下)用繊維製品

*2 乳幼児用以外の繊維製品

*3 TDBPP:トリス(2,3-ジブロムプロピル)ホスフェイト

*4 BDBPP化合物:ビス(2,3-ジブロムプロピル)ホスフェイト化合物

*5 DTTB:4,6-ジクロル-7-(2,4,5-トリクロロフェノキシ)-2-トリフルオルメチルベンズイミダゾール

表2 家庭用品検査項目および規格基準

検査項目	用途	検査対象	規格基準	主な健康被害
ホルムアルデヒド	樹脂加工剤、 防菌防カビ剤	乳幼児(生後24か月以下)用繊維製品	吸光度差が0.05以下 または16 $\mu\text{g/g}$ 以下	粘膜刺激、 皮膚アレルギー
		乳幼児用以外の繊維製品、 かつら等接着剤	75 $\mu\text{g/g}$ 以下	
有機水銀化合物	防菌防カビ剤	家庭用塗料、靴墨、靴クリーム、 ワックス、繊維製品、家庭用接着剤	検出しないこと	中枢神経障害、 皮膚障害
トリフェニル錫化合物	防菌防カビ剤	家庭用塗料、靴墨、靴クリーム、 ワックス、繊維製品、家庭用接着剤	検出しないこと	経皮・経口毒性、 皮膚刺激性
トリブチル錫化合物	防菌防カビ剤	家庭用塗料、靴墨、靴クリーム、 ワックス、繊維製品、家庭用接着剤	検出しないこと	経皮・経口毒性、 皮膚刺激性
ディルドリン	防虫加工剤	繊維製品	30 $\mu\text{g/g}$ 以下	肝機能障害、 中枢神経障害
TDBPP* ¹	防炎加工剤	繊維製品	検出しないこと	発癌性
BDBPP化合物* ²	防炎加工剤	繊維製品	検出しないこと	発癌性
DTTB* ³	防虫加工剤	繊維製品	30 $\mu\text{g/g}$ 以下	肝臓障害、生殖機 能障害、経皮・経 口急性毒性
メタノール	溶剤	家庭用エアゾル製品	5%以下	視神経障害
テトラクロロエチレン	溶剤、汚れ落 とし、シミ取り	家庭用エアゾル製品 家庭用洗剤	0.1%以下	肝障害、腎障害、 中枢神経障害
トリクロロエチレン	溶剤、汚れ落 とし、シミ取り	家庭用エアゾル製品、 家庭用洗剤	0.1%以下	肝障害、腎障害、 中枢神経障害、 皮膚障害
塩化水素 硫酸	洗剤	住宅用洗剤	10%以下	皮膚障害、粘膜の 炎症、吸入による 肺障害
水酸化ナトリウム 水酸化カルウム	洗剤	家庭用洗剤	5%以下	皮膚障害、 粘膜の炎症
容器試験		住宅用・家庭用洗剤	各試験(漏水、落下、 耐酸性・耐アルカリ 性、圧縮変形)による 容器強度を有すること	
ジベンゾ[a,h]ア ントラセン	木材防腐・防 虫剤	クレオソート油	10 $\mu\text{g/g}$ 以下	発癌性
		防腐・防虫木材	3 $\mu\text{g/g}$ 以下	
ベンゾ[a]アントラ セン	木材防腐・防 虫剤	クレオソート油	10 $\mu\text{g/g}$ 以下	発癌性
		防腐・防虫木材	3 $\mu\text{g/g}$ 以下	
ベンゾ[a]ピレン	木材防腐・防 虫剤	クレオソート油	10 $\mu\text{g/g}$ 以下	発癌性
		防腐・防虫木材	3 $\mu\text{g/g}$ 以下	

*¹ TDBPP:トリス(2,3-ジブロムプロピル)ホスフェイト*² BDBPP化合物:ビス(2,3-ジブロムプロピル)ホスフェイト化合物*³ DTTB:4,6-ジクロロ-7-(2,4,5-トリクロロフェノキシ)-2-トリフルオルメチルベンズイミダゾール

【 理化学検査研究課 家庭用品担当 】

感染症発生動向調査委員会報告 5月

《今月のトピックス》

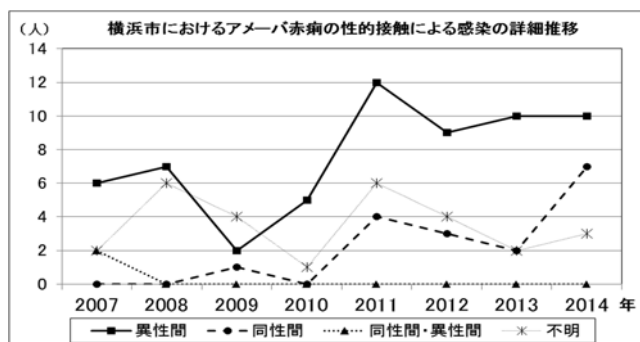
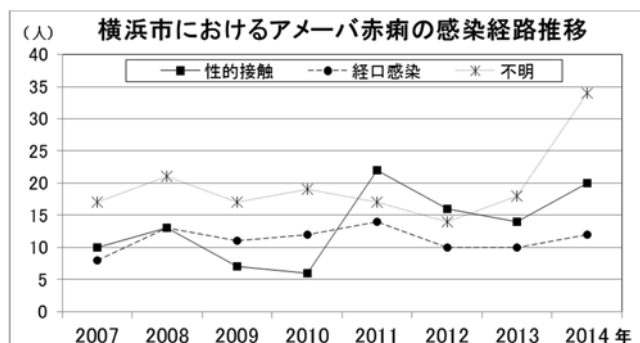
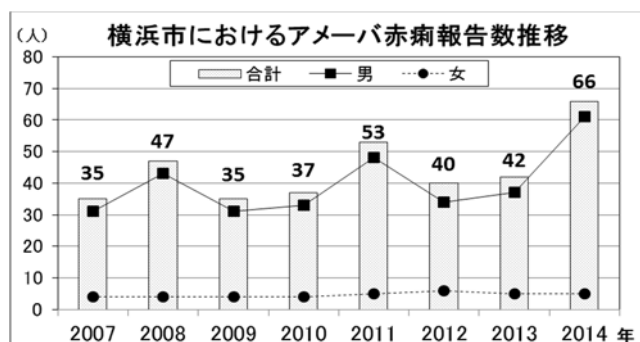
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が多くなっています。
- 夏季に流行する感染症(腸管出血性大腸菌感染症、咽頭結膜熱、手足口病等)に注意しましょう。

全数把握の対象

【5月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	3件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	4件
A型肝炎	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
マラリア	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	15件
レジオネラ症	3件	水痘(入院例に限る)	2件
アメーバ赤痢	4件	梅毒	9件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件		

- 腸管出血性大腸菌感染症:**3件(O157VT1VT2 1件、O157VT2 1件、O18VT1 1件)の報告がありましたが、感染原因が特定されたものではありませんでした。本疾患はこれから夏にかけて例年報告数が増加するため注意が必要です。
- A型肝炎:**1件の報告がありました。国内での経口感染が推定されていますが感染経路等不明です。
- マラリア:**熱帯熱マラリアの報告が1件あり、渡航先(ガーナ)での感染が推定されています。
- レジオネラ症:**肺炎型3件の報告がありましたが、それぞれ明確な感染経路等は不明です。
- アメーバ赤痢:**腸管アメーバ症3件、腸管外アメーバ症1件の報告がありました。そのうち1件では国内での同性間性的接触による感染が推定されており、1件は香港での経口性的接触による感染、残る2件は感染経路感染地域等不明でした。横浜市ではアメーバ赤痢の報告数が漸増傾向です。最近の感染経路では性的接触が経口感染を上回っており、性的接触では異性間が同性間を上回っています。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:**3件の報告がありましたが、院内集団感染等は確認できませんでした。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む):**AIDS 3件、その他1件の報告がありました。そのうち2件は国内での同性間性的接触、1件は国内での異性間性的接触による感染、残る1件は異性間性的接触による感染で、感染地域は不明でした。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症:**70歳代の報告が1件ありました。予防接種歴はありませんでした。
- 侵襲性肺炎球菌感染症:**15件(70歳代以上6件、60歳代2件、50歳代1件、40歳代3件、乳幼児3件)の報告がありました。そのうち乳幼児では全例予防接種歴がありましたが、成人例ではすべて予防接種歴が確認できませんでした。



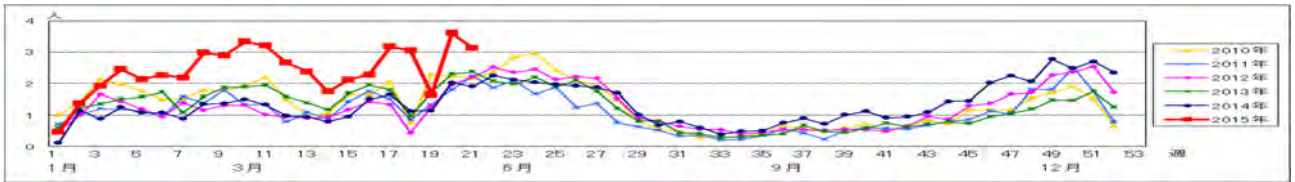
10 水痘(入院例に限る):80歳代(予防接種歴不明)の届出が1件、学童(予防接種歴1回あり)の届出が1件ありました。どちらも臨床診断例です。

11 梅毒:早期顕症梅毒Ⅱ期が4件、早期顕症梅毒Ⅰ期が4件、無症候期が1件の報告がありました。すべて国内での性的接触による感染が推定されており、異性間が5件、同性間が3件、不明1件でした。梅毒は全国的に増加しており、厚生労働省では注意喚起のために「[梅毒に関するQ&A](#)」をホームページに掲載しています。

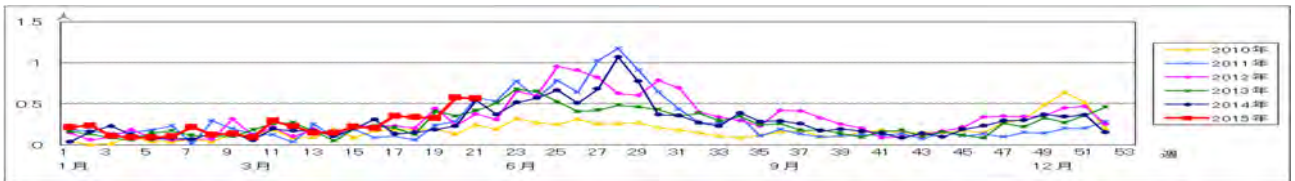
定点把握の対象

平成27年 週一月日対応表	
第17週	4月20日～4月26日
第18週	4月27日～5月 3日
第19週	5月 4日～5月10日
第20週	5月11日～5月17日
第21週	5月18日～5月24日

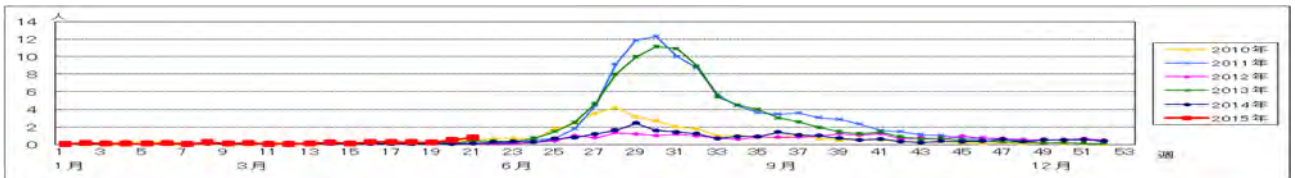
1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎:第21週は市全体で定点あたり3.13と、例年の同時期と比べて報告が多くなっています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は学童期の小児に多い疾患です。合併症として、肺炎、髄膜炎、敗血症などの化膿性疾患、あるいはリウマチ熱、急性糸球体腎炎などの非化膿性疾患を生ずることもあり、注意が必要です。



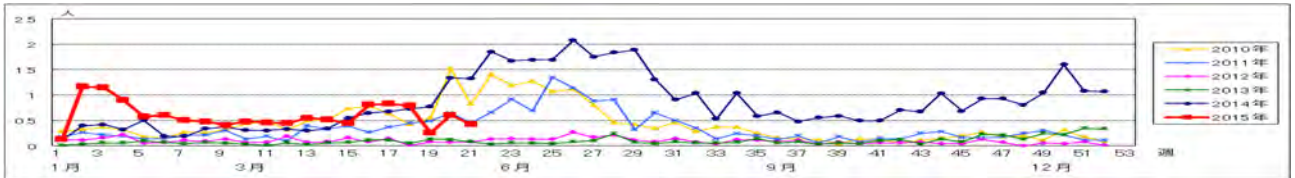
2 咽頭結膜熱:第21週は市全体で定点あたり0.56と増加傾向です。本市では例年6月～7月にかけて報告のピークを迎えるので今後の注意が必要です。感染経路は、プールを介した場合には、汚染した水から結膜への直接侵入と考えられています。また、プールでのアウトブレイクの調査結果からは、タオルを共用したことが感染のリスクを高めたとの報告もあります。それ以外では通常飛沫感染、あるいは手指を介した接触感染であり、結膜あるいは上気道からの感染です。



3 手足口病:まだ報告数は多くありませんが、夏季に流行する疾患であり、第19週0.21、第20週0.49、第21週0.79と、少しずつ報告数が増えています。



4 伝染性紅斑:第21週は市全体で定点あたり0.43と低下傾向です。



5 性感染症:4月は、性器クラミジア感染症は男性が22件、女性が13件でした。性器ヘルペス感染症は男性が6件、女性が7件です。尖圭コンジローマは男性4件、女性が2件でした。淋菌感染症は男性が7件、女性が2件でした。

6 基幹定点週報:マイコプラズマ肺炎は第17週0.25、第18週1.00、第19週1.25、第20週0.00、第21週1.00となっています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)は、第17週1.00、第18週0.67、第19週0.50、第20週0.33、第21週0.00となっています。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。

7 基幹定点月報:4月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症15件、薬剤耐性緑膿菌感染症1件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

<ウイルス検査>

5月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点35件、眼科定点5件、基幹定点5件でした。

6月8日現在、ウイルス分離10株と各種ウイルス遺伝子17件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(5月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上気道炎	下気道炎	アデノ感染症* ₁	胃腸炎	手足口病	急性出血性結膜炎	耳下腺炎	伝染性紅斑
アデノ NT	3							
アデノ 1型	1							
アデノ 4型			1			1		
インフルエンザ B/山形	2							
パラインフルエンザ 1型		1						
パラインフルエンザ 2型	1	1						
パラインフルエンザ 3型	1							
コクサッキー A16型					4			
パレコ 1型				1				
ヒトメタニューモ		2						
ムンプス							1	
B19								1
ヒトボカ	1	1						
ライノ	2	2						
合計	3	0	1	0	4	1	1	0
	8	7	0	1	0	0	0	1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数、NT:未同定、*₁ 咽頭結膜熱を含む

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

5月の感染性胃腸炎関係の受付は、小児科定点から1件、基幹定点から1件、その他が5件で、腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT&2、O157:H-,VT1&2)が2件、腸管毒素原性大腸菌(O6:H16,LT)が1件、カンピロバクターが2件検出されました。

その他の感染症は小児科から9件、基幹定点から3件、その他が23件でした。A群溶血性レンサ球菌のT型別不能のうち1件は劇症型レンサ球菌感染症の患者から検出されました。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(5月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	5月			2015年1月～5月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	1	1	5	1	47	20
菌種名						
赤痢菌						1
腸管出血性大腸菌			2			7
腸管毒素原性大腸菌		1			1	
チフス菌						1
パラチフスA菌						4
サルモネラ					33	1
カンピロバクター			2			2
コレラ菌						1
不検出	1	0	1	1	13	3

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	5月			2015年1月～5月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	9	3	23	23	21	263
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1			3		4
	T4	1		4		
	T12			1		
	T28			2		3
	型別不能	6	1	11		2
G群溶血性レンサ球菌						4
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌			2		7	24
バンコマイシン耐性腸球菌					1	1
<i>Legionella pneumophila</i>						2
インフルエンザ菌						1
肺炎球菌			14		1	53
<i>Neisseria meningitidis</i>						2
結核菌						132
百日咳					1	1
その他		2	2		9	11
不検出	2	1	4	2	2	23

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成27年5月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (平成27年5月)

平成27年5月の総アクセス数は、100,481件でした。主な内訳は、感染症情報センター65.7%、食品衛生5.3%、保健情報8.3%、検査情報月報5.7%、生活環境衛生3.8%、薬事0.7%でした。

(2) アクセス順位 (平成27年5月)

5月のアクセス順位(表1)

表1 平成27年5月 アクセス順位

は、第1位が「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」、第2位が「B群レンサ球菌(GBS)感染症について」、第3位が「ぎょう虫(蟯虫)症について」でした。

5月の総アクセス数は、前月に比べ3%ほど増加しました。今月の1位はクロストリジウム-ディフィシル感染症で、老人や免疫機能が低下している人たちに多く発生します。また、2位のB群レン

サ球菌(GBS)感染症や7位のサイトメガロウイルス感染症、9位のリステリア症などは、[健康な妊娠・出産のために注意したい感染症](#)の一つです。3位のぎょう虫(蟯虫)症は、学校等が始まるこの時期に、アクセス数の増加が見られます。10位のエンテロウイルスによる感染症は、夏から秋にかけて多く発生します。こどもの夏のカゼの代表としてよくあげられる[手足口病](#)や[ヘルパンギーナ](#)を起こすウイルスは、エンテロウイルスに属します。

順位	タイトル	件数
1	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	3,834
2	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	3,256
3	ぎょう虫(蟯虫)症について	3,141
4	EBウイルスと伝染性単核症について	2,575
5	衛生研究所トップページ	2,103
6	横浜市感染症情報センター	1,769
7	サイトメガロウイルス感染症について	1,684
8	A群溶血性連鎖球菌感染症について	1,682
9	リステリア症について	1,320
10	エンテロウイルスについて	1,181

データ提供: 市民局広報課

「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/clostridium1.html>

「B群レンサ球菌(GBS)感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/gbs1.html>

「ぎょう虫(蟯虫)症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/gyou1.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ（平成27年5月）

平成27年5月の問い合わせは、0件でした。

2 追加・更新記事（平成27年5月）

平成27年5月に追加・更新した主な記事は、6件でした(表2)。

表2 平成27年5月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
5月 8日	感染症に気をつけよう(5月号)	掲載
5月11日	チリのこどもの定期予防接種について	更新
5月12日	アルゼンチンのこどもの定期予防接種について	更新
5月13日	カナダのこどもの定期予防接種について	更新
5月15日	◆パンフレット◆ 熱中症に注意しましょう！	更新
5月15日	エンテロウイルスについて	更新

【 感染症・疫学情報課 】